平成 30 年８月１日

30 年度 氷見市教育総合センターだより 第３報

魅力ある学級づくり研修会　　６月 27 日（水）開催

演題　　Q-Uの分析を生かした学級経営の在り方

－　そのために教師は何をするのか　－

講師　　富山国際大学　教授　　瀬　戸　　健　先生

Q-Uの分析結果を生かした魅力ある学級づくりを目的に研修会を開催したところ、19 名の参加がありました。

研修会では、瀬戸教授よりQ-Uのプロット図から学級の傾向を探り、その傾向に応じた対応策について説明がありました。また、教師の言葉がけの大切さを学ぶために実際の映像を見ました。ちょっとした言葉がけの違いで、子供たちの言動が大きく変わることに参加者は驚きを感じていました。

次に、魅力ある学級とは、どのような学級かについて共に考えました。その中で、「学級は、子供の成長が保障されなくてはいけないこと」、「やろうとする姿勢に価値をおいてほしいこと」など、一人一人の学びに目を向け、公平な学級をつくることが魅力ある学級づくりにつながるということを教えていただきました。

以下、参加者の感想の一部を紹介します。

- 教師の言葉がけ一つで態度が変容する子供たちの映像を見せていただき、教師の言葉の偉大さと言葉を発することの責任の重さを痛感しました。
- 子供同士が関わりを生み出すことも大切ですが、教師の声かけや支援によって子供たちの成長があったり意欲の高まりがあったりするものだと改めて感じました。
- 「教師の言葉には力がある」という瀬戸先生の言葉が印象に残りました。子供が集団の中で貢献し、成長していくことができるようにしっかりと子供たちのことを見ていきたいし、自分自身も子供たちと同じ体験をし、価値のある言葉をかけてあげたいと思いました。

第１回　氷見市いじめ問題対策連絡協議会　　７月５日（木）開催

昨年度の氷見市のいじめの認知件数や、学校におけるいじめ問題に対する日常の取組について事務局から提案しました。市内の学校では、いじめ問題に対する研修会を実施したり、教育相談体制を充実したりしています。今後、ＰＴＡ等、地域の関係団体とともに、いじめ問題について協議する機会を推進していくことを共通理解しました。

協議では、まず学校関係者から、Q-U調査やいじめアンケート等を実施し、いじめの未然防止や早期発見に努めていることや、いじめを発見したときの早期対応について話してもらいました。また、ネットを介したいじめを防ぐための、ネットトラブルの講演会の開催や、ネットルールづくりについての取組も紹介されました。

各機関の代表者の方々からは、「関係機関の取組（ＳＯＳミニレター、親学び等）」「関係機関と学校との連携の在り方」「地域における子供の叱り方」などについて意見が出されました。また、ネットを介したいじめは見付けにくいため、多くの目で子供を見守り、相談できる人を増やしておくことが大切だということや、いじめに関わった子供たちの心のケアの大切さについても意見交換されました。

教育委員会事務局として、今回の貴重な意見や提案を参考にし、関係機関との連携を一層強めていきたいと考えています。各学校においては、より実効性のあるいじめ防止対策を推進されるようお願いします。

ＩＣＴを活用した授業づくり研修会　　６月２８日（木）開催

研究授業　「遺伝の規則性と遺伝子」氷見市立西條中学校　青柳　崇広　教諭
講　師　東京学芸大学　准教授　高　橋　純　先生

今年度は、西條中学校区の３校に「ＩＣＴ教育推進協力校」になっていただき、授業を通した研修会を行います。その第１弾として、西條中学校の青柳先生に授業を公開していただき、ＩＣＴを効果的に活用した授業づくりの在り方について研修しました。

青柳先生は、各グループの実験結果を電子黒板に集約してグラフ化したり、タブレットに書き込んだ考えを共有したりすることで、思考の活性化を図ろうと工夫されていました。参加した先生方からは、さらに有効に使うための使い方等について活発に意見が出されました。

講師の高橋先生からは、生涯にわたって能動的に学習を行うためには何が必要かという観点から指導していただきました。また、ＩＣＴ活用については、「とても効果的だけどたまにしか使わない」というのではなく、「少しの効果だけど毎日使う」ことを、「エースが圧巻の授業を行う」のではなく「全員がベストを尽くす」ことを目指してほしいと話されました。また、西條中学校の日常の取り組みについても取り上げ、評価してくださいました。

今回学んだことを基に、氷見市のＩＣＴ活用をさらに推進していきたいと思います。参加者の感想の一部を紹介します。

- ＩＣＴは目的ではなく手段であるということを改めて感じた。まずはＩＣＴに触れ、スキルを身に付けるところから始めていきたい。
- ＩＣＴは、問題解決学習で活用するよりも、もっと簡単に使うこと、ＩＣＴありきではなく授業ありきであることなどの大切さがよく分かった。
- ＩＣＴにばかり目を向けるのではなく、資料の適切な読み取りや事実把握の仕方について、しっかりと考えていかなければならないと思った。
- 子供たちの頭がフル回転する授業をめざして授業改善に努めていきたい。

ＩＣＴ教育研修会　　７月２６日（木）開催

演　題　「新学習指導要領とＩＣＴ活用」
講　師　東京学芸大学　准教授　高　橋　純　先生

高橋先生は、本年度５回氷見市にお越しくださり指導していただくことになっています。23 名が参加した本研修会では、ＩＣＴの効果的な活用についてご講演をしていただきました。ＩＣＴを使うことが目的にならないように、学習内容の質を高めるための道具として使っていけるように、多くの示唆をいただきました。そして、「子供の頭がフル回転している授業」を目指してほしいと語られました。また、文字入力等の大人になっても使う操作について、子供のうちから身に付けておくことの必要性についても話されました。

参加者の感想の一部を紹介します。

- ＩＣＴを「学びを深める手段」として、学習過程に有効に位置付けていきたいと思った。
- 子供にＩＣＴ機器を使わせるだけでなく、スキルをしっかりと身に付けさせたいと思った。
- どの教科においても。「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という学習過程を意識して授業を構成していくことの重要性を感じた。
- ＩＣＴを効果的に活用していくためには、深い教材研究が必要である。気軽に利用できる環境整備や、教師の意識改革が必要だと感じた。

第１回教育セミナー　　７月２７日（金）開催

演　　題　　「主体的・対話的で深い学びの授業づくり」
講　　師　　國學院大學人間開発学部　　教授　　田　村　　学　　先生

田村先生は、児童生徒が生き生きと学んでいる姿や、理解を深めていく発言やつぶやきを幾つも紹介しながら、「深い学び」とはどのようなものであるかを具体的に教えてくださいました。

「宣言的な知識がつながるネットワーク型タイプ（徳川幕府、家庭科の例）」「手続き的な知識がつながるタイプ（跳び箱、リコーダー等の技能習得の例）」「知識が場面につながるタイプ（柔道から全てのスポーツへの例）」「知識が目的や価値、手応えとつながるタイプ（総合でのヒアリの調べ学習）」の４つのタイプの一つ一つの事例に、１０５名の参加者はうなずきながら各々の学びを深めていました。

また、音声言語による話合い（インタラクション）の後に、文字言語での振り返り・丁寧な熟考（リフレクション）をすることが深い学びを実現するために重要であるとお話されました。参加者の感想の一部を紹介します。

- 「深い学び」について、“抽象的”と感じていたものが、紹介していただいた様々な授業実践例で“具体的”に見えてきた。生徒が体得した知識や技能を関連づけ、次の学びにつなげられるよう意識して授業改善に取り組みたい。
- 「今の授業の概念は古い。時代によって変化させなければいけない」と言われた言葉がとても心に残った。長年の経験を大切にしながらも、発想を大きく転換させなければならないと痛感した。
- 思考ツールを使うと考えが深まることが分かった。比べる、分類する、関連づける、統合するなど、それぞれの思考を誘う枠組みが適切に準備されていると、目的に迫ることができる授業になると思った。

幼保小接続研修会及び合同講演会　　７月 30 日（月）開催

演題　　子どもの利益を最優先する幼保小連携を目指して
～どの子供も安心して学べるために～
講師　　北海道教育大学　教授　　阿 部　美 穂 子　先生

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るため、子育て支援課と合同で第２回幼保小接続研修会及び合同講演会を開催し、59 名の参加がありました。

午前中には、上庄保育園と十二町保育園において公開保育が行われました。経験させたい内容、育てたい力を明確にした保育、小学校への接続を意識した保育が展開されており、小学校教員にとって入学してきた子供たちとどう接していけばよいかを知る貴重な機会となりました。

午後からは阿部先生の講演を聴きました。阿部先生は、幼保小の接続支援の基本的な考え方として、「子供の発達の状態に応じた、柔軟な対応」「各幼・保・小の実情に応じたオリジナル接続プランの実行」が大切であると話されました。また、育てたい子供の力を明らかにし、一貫して伸ばしていくために「カリキュラムをつなぐ」ことも大切だと話されました。そのためには、大人同士が顔見知りになり、気軽に声を掛け合い相談できる今の幼保小の関係をさらに深化させていくことが必要であると言われました。

ＡＬＴ　マットさん、ボイドさん、ありがとうございました

英語や外国語活動で指導していただいたＡＬＴのマーティーン・アメンポアさん（１年間）、ボイド・チングさん（１年間）が、７月末で勤務を終えられました。それぞれの夢に向かって、次のステップに進まれます。２人からメッセージをいただきましたので紹介します。

マーティーン・アメンポアさんからの言葉

Hello, everyone! My name is Matt. I spent one amazing year in Himi, and now I am preparing to move to Tokyo. I will work at a big international hotel, speaking both Japanese and English to help many international customers. I have really enjoyed my time in Himi. I love the food, the view, Banyagai, and most of all, my schools. I will really miss my coworkers and my students. You have all made a huge impact on my life, and I hope to see you again!!

Aminpour Matteen Eleeson Habib

ボイド・チングさんからの言葉

It's been one long year in Himi and there are many memories I will never forget for the rest of my life. The buri, the beautiful scenery, and last but not least, the extraordinary kindness of the people living here. There really is something special about this place. You can feel it in the ground and in the air and I knew it the moment I came here.

This is not the end between me and Himi, we have done so much together and there is still so much more to do. I just want to say thank you to Himi before I leave and I hope to see you again soon.

Ching Boyd Ying

◆小学校では、外国語指導員の方々の協力を得て、１学期の外国語活動の授業を行いました。

指導員の上野和枝さんからコメントをいただきました。

T2 として三校を担当させていただきました。指導案が作られているので授業内容に大きな差はなかったと思います。電子黒板を見ながらのチャンツでは繰り返し言うことでそのフレーズを覚えているようでした。カードゲームは大盛り上がり。「やらされている」という感じがなく、非常に有効な指導手段だと思いました。

対照的に、書く活動になると、書く内容がないと悩んでいる姿が見られました。英語が分からないからという理由ではなく、自分の気持ちを表すことが苦手なのだと感じました。今の子供たちは、自己主張することがあまり得意ではありません。英語はコミュニケーションツールです。自分の気持ちを伝えたいという思いが強いほど英語の能力は更に向上していくはずです。外国語活動のよさは楽しみながらコミュニケーション能力を身に付けることだと思います。

いつまでも子供たちの笑顔が絶えない授業でありますようにと願っています。